

下野市立石橋小学校

1 学校課題

「豊かな心で、共に生きる子どもを育む道徳教育」
 ～自ら考え、学び合う道徳の時間をめざして～



2 研究計画

- ①道徳的価値を大切にする心や態度を育てる。
 - ・ 価値項目を教員がどうとらえるか、価値のとらえ方、深め方について研修する。
 - ・ 価値項目にあった資料の開発や効果的な活用を図る。
- ②言語活動の充実を図り、豊かに学び合う集団を育てる。
 - ・ 価値理解・人間理解・他者理解を深め合い、自分の考えを表現できる児童を育成する。
 - ・ 話し合い活動のねらい、話し合う形態の効果的なあり方を研修する。
- ③道徳の時間と各教科・領域との関連を図り、日常の教育活動の中で意図的な働きかけを行う。
 - ・ 教育活動全体の中で道徳の時間に学習したことを関連させる場を設定する。
- ④外部講師の活用を図り、研修会の充実を図る。
 - ・ S&U コラボ事業、また事業から進展した本校を中心とした道徳授業研修会を持つ。
 - ・ 研修が深まるような検討会の方法を工夫する。
 - ・ 授業の振り返り・検討会の振り返り・研究の振り返りを生かし、研修に努める。

3 研究内容

(1) 今年度の具体策

- ①「子どもの言葉で語り合う道徳」をめざし、毎週の道徳の授業を充実させる。
 - ・ 発問の精選・構造的板書・教師が児童の言葉をつなぐ授業を実践していく。
- ②教職員が互いに認め合いプロとして伸びようとする協同的な学ぶ集団を目指す。
 - ・ 授業公開ではうまい授業でなくよい授業を目指す。(構えず、授業のねらいを持ち、前進的に)
 - ・ 補助資料や作業用紙の活用の仕方を研修し合う。
 - ・ 各学級での授業の様子を学年内で伝え合い、児童の実態にそった道徳的価値を深め合う。
 - ・ ユニバーサルデザイン的な発想や各専門分野での教育技術を紹介し合い、教師としての資質を高め合う。
- ③外部講師の協力を活用する研修を設ける。
 - ・ S&U コラボ事業を利用し、事前検討会や本校職員のリクエストによる模範授業と検討会を行っていただく。
 - ・ 社会教育の研修法を取り入れたり、大学の内留生に研修会に参加していただいたりして、効果的な振り返りの仕方を研修する。(児童・職員とも)

(2) 研究の実際

日時	形態	内容
4/ 9 (木)	校内研修	学校課題確認, 共通理解, 組織作り
6/ 9 (火)		学年ブロック会による年間計画の見直し, 資料選定
6/24 (水)	S&U 事業	S&U コラボ事業授業研修 事前検討会
		S&U コラボ事業公開授業研修会 4年2組 主題名 夢に向かって 1-(2) 「きっとできる」
8/ 4 (火)	要請研修	自主授業研修 事前検討会



9/ 9 (水)	要請研修	自主公開授業研修会 5年2組 主題名 皆が気持ちよく生活するために 4-(1)「ふくらんだリュックサック」
10/14 (水)	校内研修	検討会の持ち方 ワールドカフェ形式
11/ 2 (月)	要請研修 協力授業 要請研修	自主授業研修 事前検討会 学校課題研修会公開授業 宇都宮大学准教授 和井内良樹先生 6年2組 C-12 規則の尊重「きまりは何のために」
11/25 (月)		自主公開授業研修会 1年2組 主題名 命を大切に 3-(1) 「ハムスターの赤ちゃん」
12/14 (月)	協力授業	学校課題研修会公開授業 宇都宮大学准教授 和井内良樹先生 1年3組 大切につかおう A-3 「よくかんがえて」
1/27 (水)	校内研修	研修の振り返り、研修の反省
2/24 (水)	校内研修	研究のまとめ、来年度の計画案



4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

目指す児童像の共有ができたか

- ① 研修課題について95%の教員が「重点目標を共有し実践できた」「おおむねできた」と考えている。各自が新たな気付きや学びを吸収し、目指す児童像に向け道徳の授業を実践してきた。なにより「大きな変化はないけれど、道徳の授業を大切に実践していこうという思いを継続できている。」という意見が多かったことから、児童とともに教師も自ら考え、学び合う道徳の時間を目指すことができた。
- ② これまでの本校の研究成果として構造的板書やテーマ発問の成果が上がっていたが、成果にとらわれることなく、児童の発達段階や、ねらいとする価値や資料によっていろいろな指導法が考えられた。「道徳の授業に絶対に正しいあり方はない。」という意識のもと、教師各自が道徳的価値に適切だと考えられる資料や資料の提示の仕方、発問などの技術を研修し合い、子ども同士の言葉をつなぎ、子どもの言葉で語り合う授業を目指すことができた。
- ③ 外部講師、特に宇都宮大学の先生方に、資料や道徳的価値について研修したり、学びたいことを要望して授業を公開していただいたりした。資料を作成した意図や資料の効果的な活用の仕方、児童の意見の取り上げ方など、気軽な雰囲気ですぐ具体的に分かりやすく学ぶことができた。学んだことが個々の授業に生かされている。

児童像の共有	人	比
できた	10	41.0%
おおむね	13	54.0%
あまりできない	0	0.0%
できなかった	0	0.0%
無回答	1	5.0%
合計	24	100

(2) 今後の課題

- ① 研究が5年目になり、教師の異動によって道徳授業のとらえ方が多様化している。石橋小内で研究してきたことの共通理解を図る必要があるが、時間や場の確保が難しい。
- ② 特別支援学級に在籍している児童は、交流学級での道徳の授業に参加しているため特別支援学級担任は道徳の授業から離れてしまう。ユニバーサルデザインの授業提供でよかったのか、疑問が残る。
- ③ 価値項目をどう考えるか。本校の重点項目を検討し全校で課題を共有し研修したい。
- ④ 教科化に向け、授業内での児童の様子を道徳的価値と照らし合わせどうとらえるかどう評価するかなど新たな課題も出てきた。

